



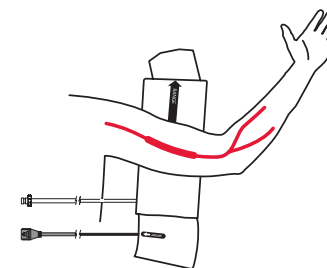
手順 1

二頭筋および三頭筋の間の上腕動脈を触診する。



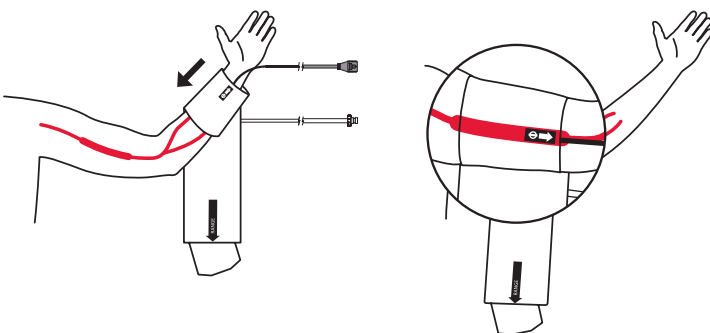
手順 2

適切なサイズのカフを選択します。カフには、適切なサイズを確保するため内側と外側の両方に範囲マーカースが付いています。



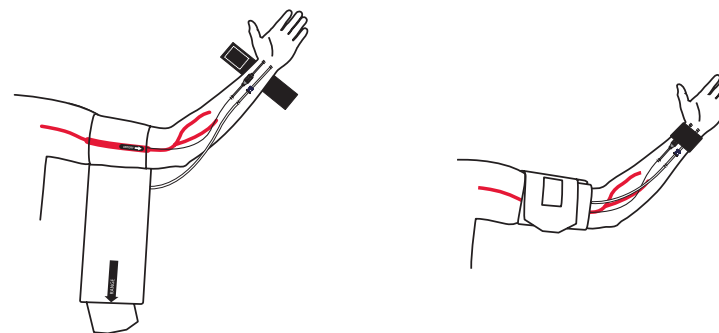
手順 3

カフを腕に装着します。動脈マーカースが腕の下を指すようにし、マイクロフォンが上腕動脈の上に、肘から 3 ~ 5 cm の位置にあることを確認します。



手順 4

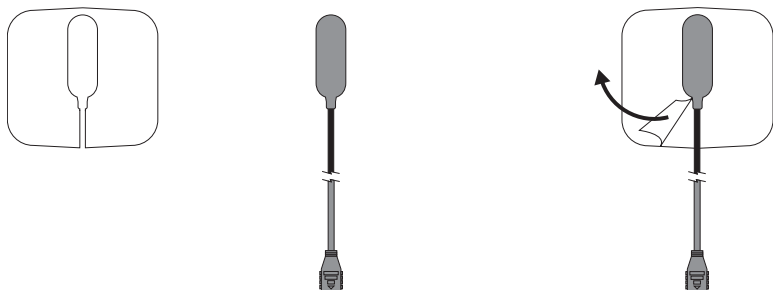
カフを腕にしっかりと巻き付けます。Tango M2 に付属のリストストラップを使用して、患者ケーブルとマイクロフォンケーブルの両方を患者の手首に固定します(下図参照)。





手順 1

表示されるようにマイクロフォンパッドにマイクロフォンを設置します。接着面によってマイクロフォンはマイクロフォンパッドの内側に固定されます。



手順 2

以下に示すように、マイクロフォンパッドの保護カバーをはがします。

手順 3

マイクロフォンの配置は、Tango M2 のパフォーマンスに不可欠です。マイクロフォンを上腕動脈の上に置き、二頭筋と三頭筋の間に入れます (肘の屈曲部からおよそ 2 本の指の幅)。

手順 4

適切なサイズの SunTech 使い捨てカフを選択します。カフには、適切なサイズを確保するため内側と外側の両方に範囲マーカが付いています。

手順 5

カフを腕にしっかりと巻き付けます。以下に示すように、動脈マーカは上腕動脈の上にある必要があります。

手順 6

以下に示すように、マイクロフォンケーブルをコネクタに差し込みます。コネクタはどの方向でも挿入することができます。安全な接続が確立されると、カチッという音が聞こえます。

手順 7

以下に示すように、カフホースを Tango M2 患者ケーブルの患者ケーブルコネクタに接続します。

手順 8

Tango M2 に付属のリストストラップを使用して、患者ケーブルとマイクロフォンケーブルの両方を患者の手首に固定します (下図参照)。

